金沢市公共レンタサイクル「まちのり」の概要

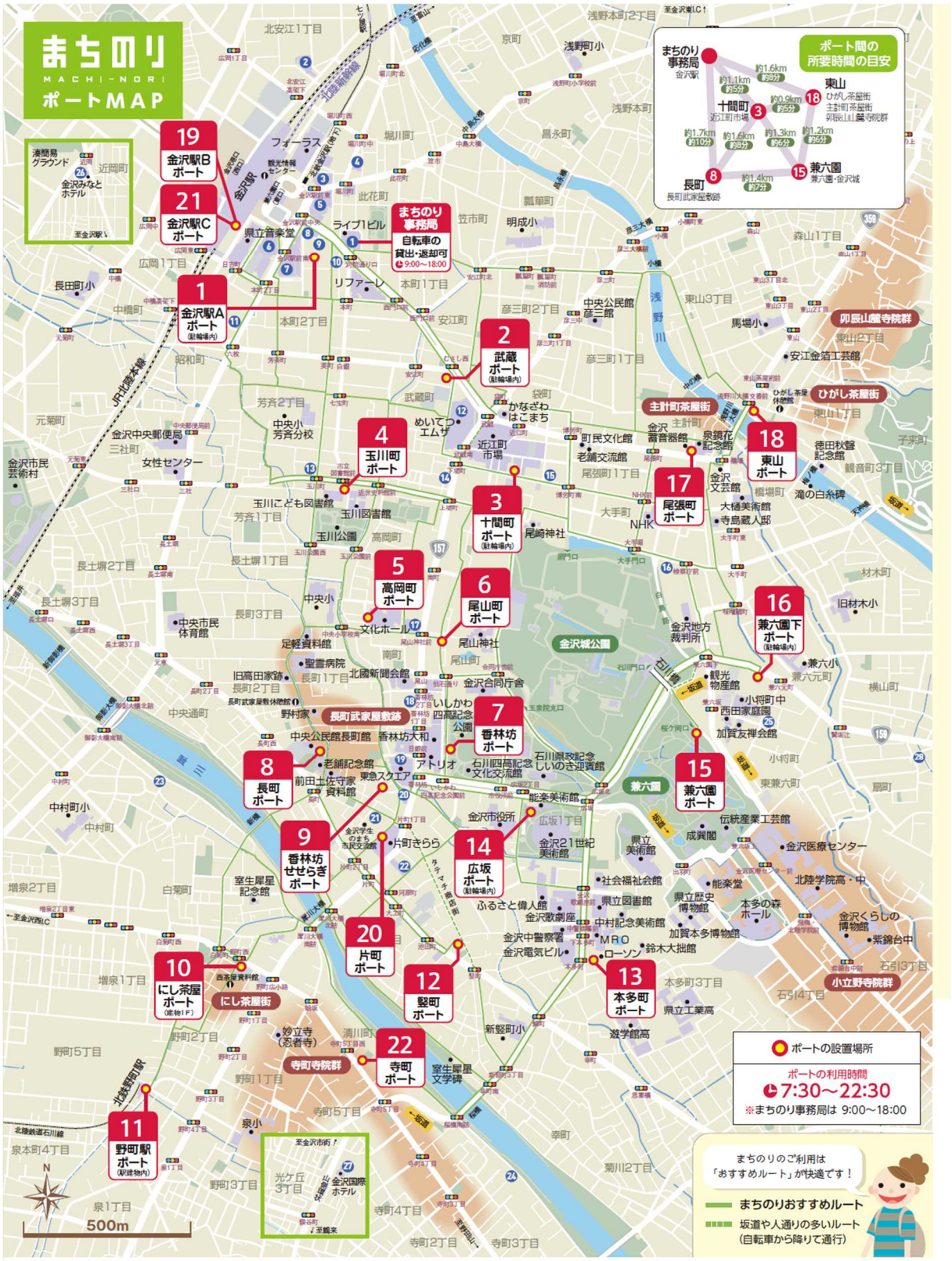
１．事業概要

主体	実施主体	金沢市
	運営主体	(株)日本海コンサルタント 協定期間　平成 24 年 2 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日
期間	共用開始	平成 24 年 3 月 24 日（土）
	運営時間	貸出：7:30～22:30　　返却：24 時間可
施設規模	自転車台数	155 台
	ポート数	21 箇所＋まちのり事務局
料金体系	1 日基本料金	200 円
	1 月基本料金	1,000 円
	1 年基本料金	9,000 円
	法人基本料金	12,000 円（1 年間）
	追加料金	30 分超ごとに 200 円
管理	認証媒体	IC カード又はパスワード
	料金収受	クレジットカード まちのり事務局では現金利用可能 提携ホテルでは宿泊者のみ現金利用可能（27 箇所）
機器	車両	20 インチ小径車、新車 内装 3 段変速、自動ライト点灯、前カゴ、電動アシストなし
	ラック	個別電磁ロック式
	端末機	タッチパネル、音声 5 カ国語対応
その他	再配置	自転車配置台数の偏りはトラックにて集配
導入費		108,970 千円 グリーンニューディール基金約 88,888 千円を充当

↑長町ポート

↓端末機タッチパネル

〇まちのりパンフレット（片面）



※ポート配置の基本的な考え方

・利用者の多い施設付近　　・「まちなか歩行回廊」沿線

・公共交通機関への乗換えが便利　　・公共空間でのポート設置が可能

・ポート間隔ができるだけ密であること（概ね半径 300m以内に 1 箇所）

２．事業年表（主なもの）

23 年度	公募プロポーザル実施 H24.3.24 供用開始 （ポート 18 箇所、自転車 155 台）	
24 年度	「金沢駅 B ポート」供用開始 （ポート 19 箇所）	第 35 回金沢市都市美文化賞「実行委員会特別賞」　受賞
25 年度		まちづくり功労者国土交通大臣表彰受賞
26 年度	自転車全台更新	年間利用回数 10 万回達成
27 年度	片町きららに「片町ポート」を設置 （ポート 20 箇所）	
28 年度	金沢駅に「金沢駅 C ポート」としてラックを増設 寺町５丁目緑地に「寺町ポート」を設置（ポート 21 箇所） 自転車全台更新	

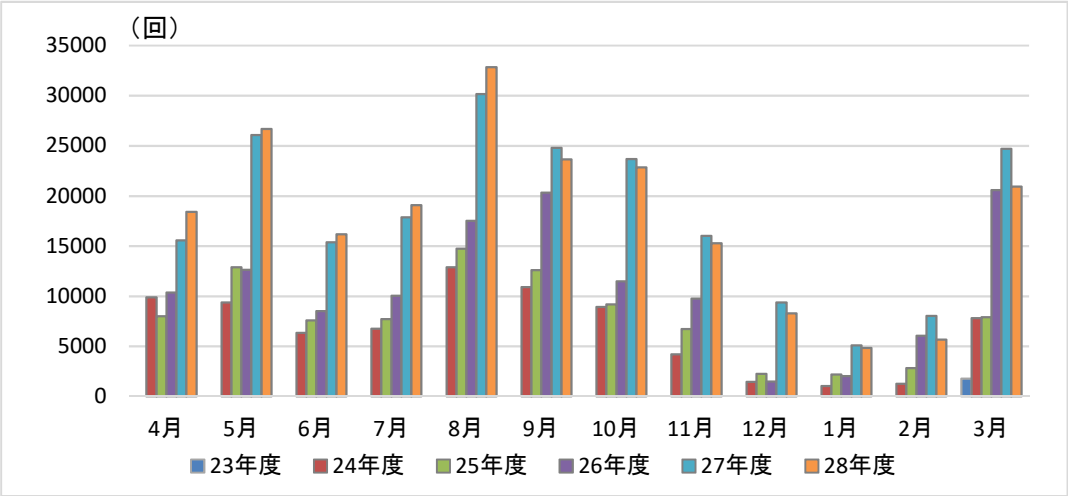
３．利用状況

○累計利用回数と利用者数

年度	利用回数	対前年比	利用者数	対前年比
23 年度	1,788 回	―	547 人	―
24 年度	81,017 回	―	30,127 人	―
25 年度	94,703 回	1.17	33,576 人	1.11
26 年度	130,885 回	1.38	43,992 人	1.31
27 年度	216,837 回	1.66	70,569 人	1.60
28 年度	214,770 回	0.99	72,344 人	1.03
累計	740,000 回		251,155 人	

当初の利用回数目標は 10 万回／年

○月別利用回数の推移



導入当初から順調に利用回数を伸ばしてきたが、北陸新幹線金沢開業（H27.3）を機に大幅に利用回数が増加している。平成 26 年度には当初の目標である年間 10 万回を達成し、平成 28 年 11 月に累計利用回数 70 万回を突破した。

月別では GW のある５月や夏休み期間の利用が多く、雪や雨の多い冬期には利用が落ち込んでいる。

〇ポート別貸出・返却回数（2016.4～2017.3）　　単位：回

順位	貸出		返却	
	ポート名	回数	ポート名	回数
１	18.東山	27,453	19.金沢駅Ｂ・Ｃ	27,653
２	19.金沢駅Ｂ・Ｃ	25,953	18.東山	25,723
３	3.十間町	23,696	3.十間町	24,117
４	14.広坂	22,120	14.広坂	20,639
５	1.金沢駅Ａ	11,898	15.兼六園	12,144
６	15.兼六園	11,343	1.金沢駅Ａ	12,055
７	2.武蔵	10,948	8.長町	10,743
８	10.にし茶屋	10,202	2.武蔵	9,961
９	8.長町	10,024	10.にし茶屋	9,898
１０	6.尾山町	8,834	6.尾山町	8,420
１１	7.香林坊	8,333	16.兼六園下	7,410
１２	20.片町	6,171	7.香林坊	7,061
１３	17.尾張町	6,155	20.片町	6,968
１４	9.香林坊せせらぎ	6,146	9.香林坊せせらぎ	6,497
１５	16.兼六園下	5,346	17.尾張町	5,106
１６	5.高岡町	4,616	5.高岡町	4,099
１７	13.本多町	4,101	0.まちのり事務局	3,989
１８	12.竪町	3,331	13.本多町	3,774
１９	0.まちのり事務局	3,208	12.竪町	3,509
２０	4.玉川町	2,320	4.玉川町	2,125
２１	22.寺町	1,601	22.寺町	1,754
２２	11.野町駅	971	11.野町駅	1,125

＊金沢駅Ｃポート、寺町ポートは 2016 年 7 月より運用開始

○主な移動パターン（2016.4～2017.3）　　単位：回

順位	貸出	→	返却	回数
1	3.十間町	→	18.東山	4,773
2	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	→	3.十間町	4,108
3	18.東山	→	3.十間町	4,103
4	18.東山	→	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	4,079
5	3.十間町	→	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	3,510
6	2.武蔵	→	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	3,295
7	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	→	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	3,258
8	19.金沢駅Ｂ．Ｃ	→	2.武蔵	3,157
9	14.広坂	→	18.東山	2,970
１０	15.兼六園	→	18.東山	2,896

移動状況及び移動パターンについては、金沢駅を拠点として、観光地のひがし茶屋街のある東山ポート、近江町市場のある十間町ポート及び武蔵ポート、金沢 21 世紀美術館のある広坂ポート、兼六園のある兼六園ポートが上位に位置している。

○登録者別利用回数（2016.4～2017.3）　　単位：回

1日	1ヶ月	1年	法人	合計
193,668	13,696	5,501	1,895	214,760

登録者別の利用回数から見ると、全体 214,760 回のうち、1ヶ月利用、1年利用及び法人契約者の利用回数は 21,092 回、10%弱である。また、利用者アンケートによると、金沢市民の利用は全体の 13%にとどまり、**利用者の約９割が市外在住者であると推定**される。

４．収支状況

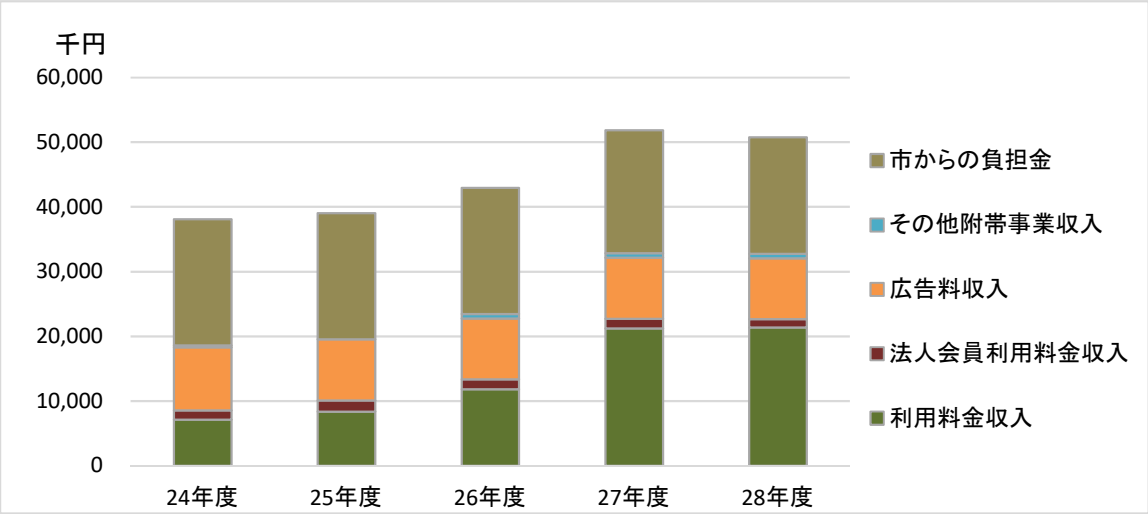
○収支と負担金の推移　　（千円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
収入（A）	18,582	19,546	23,430	32,850	32,773
支出（B）	39,288	39,420	44,333	52,759	53,109
B-A	20,706	19,874	20,903	19,909	20,336
市負担金（C）	19,500	19,500	19,500	19,000	18,000

※負担金の額は、運営業務に係る経費の総額から収入の額（附帯事業による利益含む）を控除した額を限度として年度協定で決定。

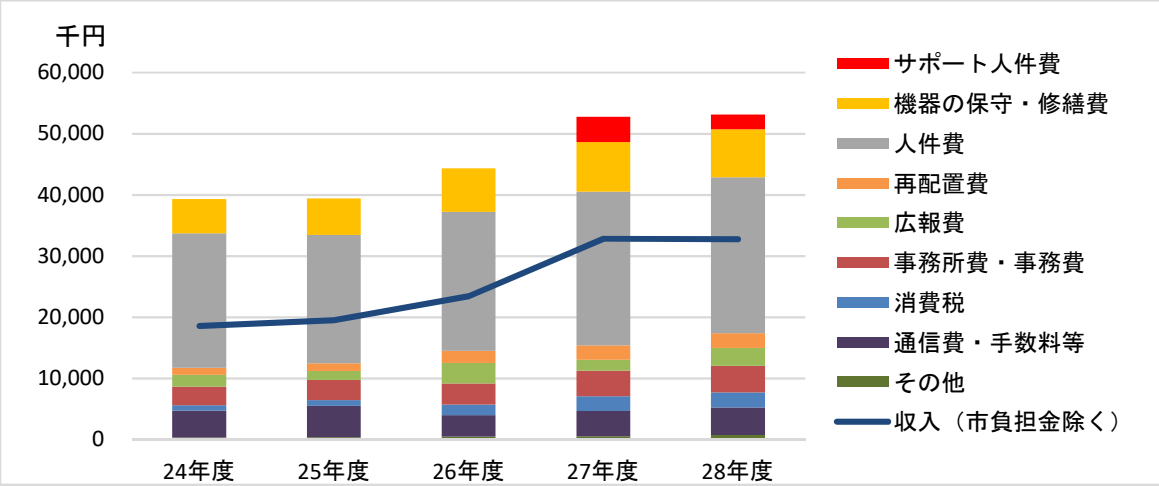
○年度ごとの収支内訳

収入



利用者の増加に伴い、利用収入は増加している一方、法人利用収入は横ばいである。また、附帯事業としての広告料収入が大きい。

支出



機器の臨時修繕、自転車更新、サポート人件費の推移　（千円）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
機器の臨時修繕費	―	―	1, 596	2, 166	2, 364
自転車更新費	―	―	10, 378	―	12, 817
サポート人件費	―	―	―	4, 127	2, 387
計	―	―	11, 974	6, 293	17, 568

利用の増及び経年劣化により機器の修繕に係る費用が年々増加している（平成 24、25 年度は保証期間のため臨時修繕費なし）。平成 27 年度からは新幹線開業による利用増に対応するため、繁忙期（GW,お盆）にもサポートスタッフを配置している。

また、利用増により自転車の劣化が早まったため、平成 26 年度、28 年度と 2 回の更新を行った。

参考資料

市計画における「まちのり」の位置づけ

まちなか自転車利用環境向上計画　＜H23.3～＞

◎つかう（自転車利用促進）

公共交通としての自転車利用促進を図る

公共レンタサイクルシステムの導入検討

無人管理の公共レンタサイクルシステムの導入を目指す。

世界の交流拠点都市金沢－重点戦略計画　＜H26.2～＞

◎まちづくり～都市機能を高める

安全で快適な自転車環境の創出

レンタサイクル「まちのり」の拡充

来街者の回遊性の向上や市民の足としての都市内交通の充実を図るため、電動アシスト自転車の導入やポートの増設など、まちのりの機能強化を図る。

第2次金沢交通戦略　＜H28.3～＞

◎歩行者と公共交通の優先　～マイカーから公共交通への転換～

自転車利用環境の向上

レンタサイクル「まちのり」の拡充

利用者ニーズの多様化に対応するため、サービス内容の見直し・改善を行い、ハード・ソフト両面の充実を図る。また、将来的なシステムや機器類の更新を見据え、次世代システムの検討を進める。

まちなか自転車利用環境向上計画（中間見直し）　＜H28.3～＞

◎つかう（自転車利用促進）　つなぐ・ひろめる

施策１．「まちのり」のサービス向上

・利用ニーズに応じて、既存サイクルポートの場所や規模の見直しを図ることにより、利便性の向上を図る。

・新たなサイクルポートの整備や電動アシスト自転車の導入などの拡充を図る。

・多様な利用ニーズへの対応の観点から、料金体系や運営体制の見直しを行い、サービス内容の充実を図る。

・利用ニーズに関する調査の上、「まちのり」のサービスエリア拡大や次世代システムについて検討する。

施策２．地域や商店街等との連携による「まちのり」の利用促進

・地域や商店街等との連携を強化することで、買い物や街巡りなどにおいて「まちのり」を活用し、市民や来街者の利便性・回遊性の向上を図る。